

大田区立不登校特例校設置計画について

1 設置の背景
 本区の不登校児童・生徒は国や都と同様、増加傾向にあり、不登校となった場合、在籍している学校へ再び通えるようになる状況が多くなかった。※つばさ教室が在籍校への復帰支援の一翼を担っている。

大田区の不登校の現状【令和2年度】

不登校児童・生徒数	小学校 298人	中学校 516人
不登校出現率	小学校 1.01%	中学校 4.71%
(参考) 都出現率	小学校 1.06%	中学校 4.93%

学ぶ意欲はあるものの、在籍校への復帰が困難となっている生徒の新たな学びと成長の場を提供することを目的に、不登校特例校分教室制度を利用し、令和3年度に旧池上図書館2・3階部分へ不登校特例校分教室「みらい教室」を開室。

分教室制度は将来的な不登校特例校への移行に向けた方策で、ふれあいはずぬまⅡ期工事で、不登校特例校及び関連施設の設置に向けた検討を行うこととしてきた。

※不登校特例校は、国の指定により、特別な教育課程の編成が認められる学校

2 特例校の学校像
 今年度、「みらい教室」の知見や先行事例としての不登校特例校（八王子市立高尾山学園）の視察、全国公私立の不登校特例校（5校/17校）への調査を踏まえ、特例校の学校像や教育活動の在り方、転入学の制度、諸室の関係について検討してきた。

そこで、**大田区立不登校特例校**（小学校4年生から中学校3年生までを対象）では**自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立できる児童・生徒の姿を目指し、次のような役割（教育理念）を学校に求めることとした。**

- 多様な学びを保障し、個性が生きる学校
- つながりを重視し、社会性が伸びる学校
- 体験と感動を重ね、自立を目指す学校
- 子どもや家庭の負担を軽減し、安心できる学校

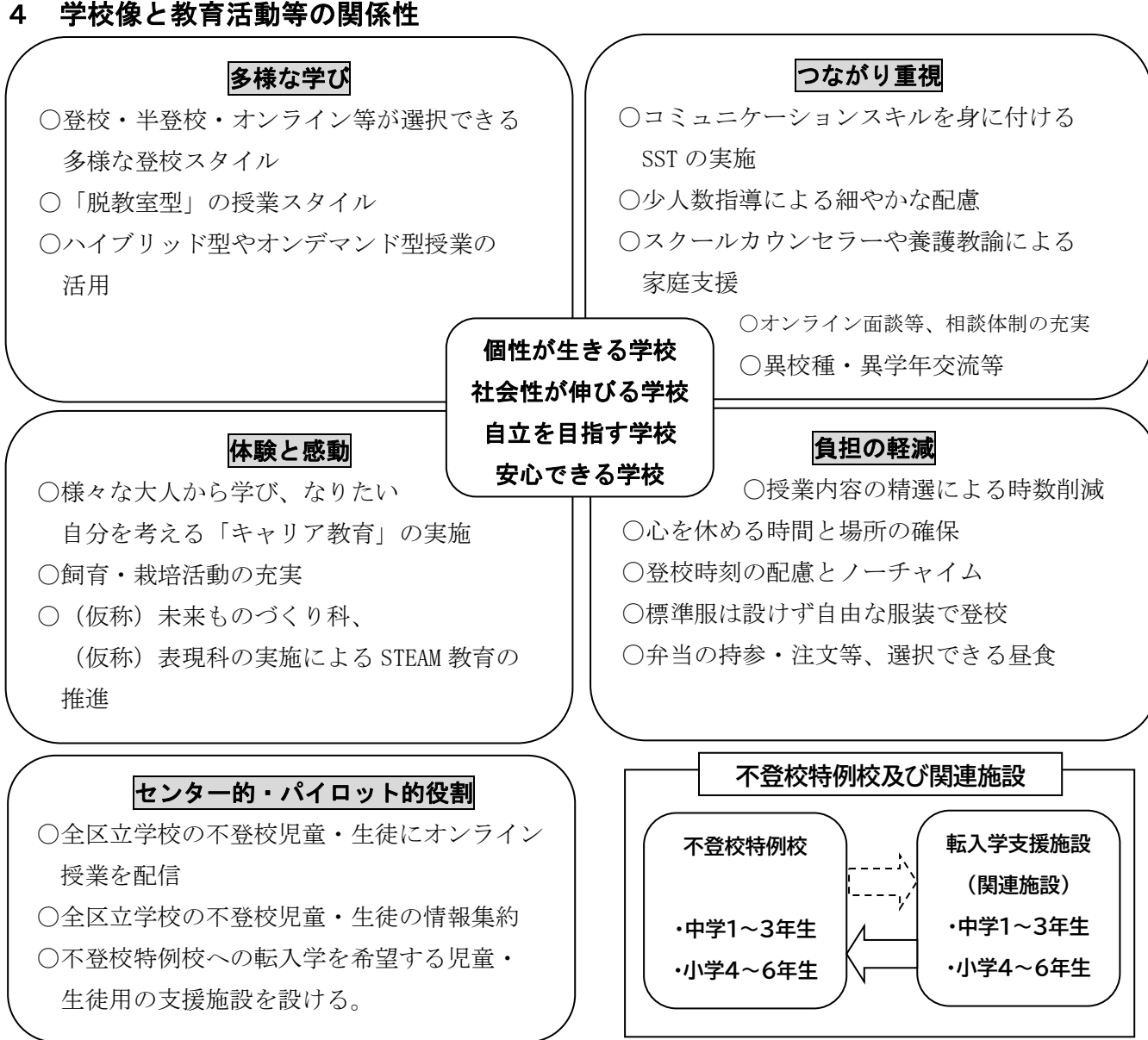
また、**本区の不登校施策のセンター的・パイロット的役割を担う学校**とし、特別の教育課程の下、既存の教育の枠にとらわれない先進的な教育活動を実施することとした。

3 想定する教育活動 ※詳細は基本構想・基本計画で検討

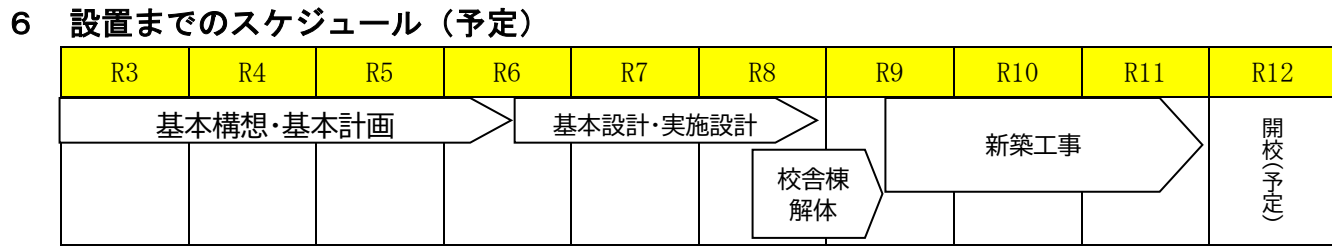
特例校の教育理念を実現するため、一人一人の個性や多様な学び方を尊重する次のような特色ある教育活動を行うことを想定する。

- 登校時刻の配慮等ゆとりある生活時程の設定
- コミュニケーション能力の向上を目的としたソーシャルスキルトレーニング（SST）の実施
- キャリア教育を柱としたカリキュラム など

※正式な教育活動は文部科学省の指定を受ける開校前年度頃までに決定。



5 設置予定場所
 ふれあいはずぬまⅡ期工事で設置（施設整備）する。



※スケジュールは社会情勢を踏まえ今後変更となることもある。